行事等報告

第4回アジア養豚学会（APVS2009）開催される

第4回アジア養豚獣医学会（APVS2009）は，2009年10月26日(月)～28日(水)の3日間，つくば国際会議場（茨城県つくば市）において，APVS2009実行委員会主催，日本豚病研究会，日本養豚学会，日本SPF豚研究会，㈳日本養豚開業獣医師協会共催，農林水産省，茨城県，つくば市，動物衛生研究所，畜産草地研究所，日本獣医師会，中央畜産会，畜産技術協会，日本養豚協会，日本養豚生産者協議会の後援により国内から789名アジア諸国をはじめ，世界各国から，425名の総勢1,214名の養豚関係者（うち獣医師520名，学生36名，生産者190名）の参加を得，最大に開催された．

26日の開会式では，オープニング映像が投影され，久保正法実行委員長から大会開会宣言が発せられ，続いて柏崎　守大会長からの大会長挨拶が行われた後，農林水産省消費・安全局動物衛生課　山本　実国際衛生対策室長（動物衛生課長代理），動物衛生研究所　村上洋介所長，日本獣医師会　山根義久会長からそれぞれ来賓挨拶が行われ，各プログラムが開始された．

学会では「養豚獣医診断技術向上のために」というメインテーマを踏まえた，基調講演（アジア各国の養豚事情と問題豚疾病，口蹄疫と豚コレラの広域清浄化を目指して，養豚産業を脅かすPRRS/PCVADの現状と診断），ワークショップ（繁殖，PRRSとPCVAD，Research Topics（ワクチン，免疫，その他），食品安全，生産システムとバイオセキュリティ，腸管感染症（ウイルス性および細菌性下痢），細菌性肺炎，診断），日本養豚学会共催公開セミナー（自給飼料を活用した豚肉生産）の他，71課題の講演・口頭発表，280課題のポスター発表が行われ，これら発表課題は生産現場の時流に即したものであり，設立当初から「産業に寄与する学術活動」をモットーとした学会として生産現場に視点を置いた理念が伺える内容で，3日多岐にわたるプログラムは盛会のうちに終了した．